第６学年２組　体育科学習指導案

平成２８年１１月１７日木曜日５校時

第６学年２組（男子１５名、女子１３名）

　　指導者　Ｔ１　年永　健二

Ｔ２　新田　雄三

１　単元名　器械運動（跳び箱運動）

２　単元の目標

　（１）　基本的な支持跳びこし技（切返し系、回転系）を安定して行うとともに、その発展技を行うことができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（技能）

　（２）　運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（態度）

　（３）　自己の能力に適した課題の解決の仕方を知り、その課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考・判断）

３　運動の一般的特性

跳び箱運動は、切返し系や回転系の技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びがある。

器械運動では、一人一人の児童がそれぞれの運動の中から自己の能力に適した技に取り組んだり、安定した着地で跳び越したりできるようにすることが課題となる。跳び箱運動の技能として、助走から踏み切り、着手、着地まで、一連の動きとしてスムーズに跳びこえることが重要である。また、ダイナミックな切り返し系の技には、強い踏み切りと両手の強い突き離しが、ダイナミックな回転系の技には強い踏み切りや腰の開き、膝を伸ばす動きが重要である。

４　児童の実態

　（１）　運動に触れる楽しさの体験状況

　　　　　本学級の児童（男子１５名、女子１３名、計２８名）は、明るく素直である。体育に関するアンケートでは、運動をすることが「好き、やや好き」と答えた児童が、２５名と多い。理由として、「体を動かすことが楽しい」「友達と一緒に遊ぶのが面白い」などと答えている。しかし、運動をすることが「あまり好きではない、好きではない」と答える児童は３名おり、「疲れるから」「運動が苦手だから」と答えている。

　　　　　また、跳び箱運動が「好き、まあまあ好き」と答えた児童は、１８名おり、「跳ぶ感覚が気持ちいい」「できた時うれしい」「いろいろな技がある」と答えている。「あまり好きではない、好きではない」と答える児童は１０名おり、「こわい」「難しい」「跳べるようになっても、時間が経つと跳べなくなる」と、心理的面や技術面で不安があることをあげていた。運動好きの児童だが、器械運動に対しては苦手意識をもっている。

（２）　態度、思考・判断に関する学習体験状況

　　　　１学期の体つくり運動や水泳の学習では、めあてをもち、その解決方法について考えたり、互いに教え合ったりしながら学習に取り組んできた。しかし、運動の行い方など内容の理解が不十分な児童もおり、自己の課題を解決できない児童もいた。

（３）　技能（運動）の習得状況

|  |  |
| --- | --- |
| 今、どんな技ができますか。（複数回答可） | 〇　開脚跳び　　　・・・・・・・・・２７名〇　かかえこみ跳び・・・・・・・・・１４名〇　台上前転　　　・・・・・・・・・　９名〇　首はね跳び　　・・・・・・・・・　１名〇　頭はね跳び　　・・・・・・・・・　１名※　跳び箱の向き（縦・横）、段数の指定なし |

体操クラブ等で器械運動の経験がある児童は３名いる。前学年では、開脚跳びや台上前転の学習を行っている。開脚跳びは多くの児童が習得しているが、十分に習熟していない児童も数名いる。アンケートの結果から、開脚跳びができると答えた児童が２７名いた反面、かかえ込み跳びや台上前転に課題があることがわかった。

（４）　体力の状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 男子 | 女子 |
| 段階 | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ | Ａ | Ｂ | Ｃ | Ｄ | Ｅ |
| 人数 | ６ | １２ | ４ | ４ | ３ | １１ | １１ | １ | １ | １ |
| ％ | ２１ | ４１ | １４ | １４ | １０ | ４４ | ４４ | ４ | ４ | ４ |

総合評価Ａ・Ｂ以上の児童が７割以上おり、体力については高い。しかし、Ｄ・Ｅ段階の児童も１割以上おり、個人差が大きい。器械運動の授業を通して、筋力、平衡性、柔軟性など高めさせることも重要である。

（５）　児童の運動に対する思いや願い

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 質問事項 |  |  |  |  |
| 跳び箱運動は好きですか。 | すき１０人 | まあまあ好き８人 | あまり好きでない７人 | 好きでない３人 |
| どんな技ができるようになりたいですか。（複数回答可） | 〇　（段数を高くした）開脚跳び・・・　９名〇　かかえこみ跳び　　　　　　・・・　８名〇　台上前転　　　　　　　　　・・・　４名〇　首はね跳び　　　　　　　　・・・１０名〇　頭はね跳び　　　　　　　　・・・　９名 |
| 跳び箱のどんなところが楽しみですか。（複数回答可） | 〇　技能が身に付くためのポイントや練習方法を知ること・・・１８名〇　自分が技能を身に付けて上手になること　　　　　　・・・２４名〇　友達も技能を身に付けて上手になること　　　　　　・・・１４名〇　技能を身に付けるためにみんなで練習すること　　　・・・１７名〇　友達と教え合ったりしてみんなで高め合うこと　　　・・・１６名〇　自分より上手な友達に追いつくこと　　　　　　　　・・・１６名 |

　　　「どのような技ができるようになりたいですか。」の質問については、首はね跳びや頭はね跳びなど６学年で学習する技に興味関心をもっている児童が多いことがわかった。「跳び箱のどんなところが楽しみですか。」の質問から、「自分が技能を身に付けて上手になること」と答えている児童が２４名と最も多く、友達と関わり合いながら授業を進めていきたいと願っている児童が半数以上いることがわかった。

５　学習を進めるに当たって

　　そこで本単元では、苦手としている児童の恐怖心を和らげていくために、易しい場や条件のもとで練習を行い、できる喜びや達成感を味わわせ、楽しみながら活動に取り組めるようにしていきたい。また、ペアやグループで教え合う活動を通して、互いに助け合う態度を育てていきたい。児童の努力を称賛し意欲の向上を図るとともに、児童の思いや願いを生かし、単元をとおして態度や思考・判断、技能を高めていけるように指導していきたい。

本学年はＴ・Ｔでの指導となる。授業の「はじめ」の段階では、技能面の指導やポイントを押さえる役割をＴ１が行い、学習の流れや安全面の指導をＴ２が行っていく。「なか」の段階では、Ｔ１は、技能的な面で個別に指導が必要な児童や場で指導を行う。Ｔ２は、各場の安全の確保や相互評価の仕方、自分の課題に合った練習の場を選ぶように指導する。めあてに沿った活動ができている児童を賞賛したりすることで、技能面だけではなく、学び方の指導を併せて行うようにする。

単元全体を「オリエンテーション」「ステップ１『基本的な切り返し系の技や回転系の技に取り組もう。』」「ステップ２『切り返し系の技や回転系の技に取り組もう。』」「ステップ３『切り返し系の技や回転系の技を、雄大に美しくできるように取り組もう。』」の４段階で構成する。単元全体をとおして、「準備運動・感覚つくりの運動」「めあてと進め方の確認」「切り返し系の技の練習」「回転系の技の練習」「本時の反省と次時の確認」の流れで進める。感覚つくりの運動では、馬跳びやうさぎ跳び、舞台への跳び乗り、舞台からの跳び下りなどを取り入れ、単元をとおして必要な感覚を養っていく。

　　オリエンテーションでは、切り返し系の技や回転系の技を映像で見せることで、児童にゴールイメージをもたせたい。また、できる技の確認を行い、一人一人が自己の課題をもって「ステップ１」へとつなげていきたい。加えて、ルールや安全に気を配る大切さを指導していきたい。

　　「ステップ１」では、中学年で学習する技を中心に指導していく。その際、学習カードやＩＣＴ機器を活用して技のポイントを明確化していく。そのポイントが相互評価のポイントとなることも併せて指導し、互いに教え合いながら学習に取り組む態度を育てていきたい。

「ステップ２」では、「ステップ１」で学習したことを生かしながら、高学年で学習する技を中心に取り組む。易しい場や条件のもと練習することで課題を解決できる喜びや、運動の行い方を工夫する大切さを感じさせていきたい。

　　「ステップ３」では、それぞれの技を美しくダイナミックに行うことをめあてに取り組ませていきたい。その際、ステップ２の技に加え、発展技の首はね跳びや頭はね跳びの技に挑戦させていく。場の工夫やグループでの補助の仕方を知り、安心して取り組めるようにさせていきたい。

　　特に、本時の学習では、切り返し系の技と回転系の技の課題別学習を行い、それぞれの技をより雄大に、美しくすることをめあてに取り組ませていく。「はじめ」の段階では、学習カードを用いて技のイメージやポイントを押さえ、自己の課題をもたせるようにする。「なか」の段階では、自己の力に合った場で練習し、技の感覚をつかませたり、技のポイントをもとに互いに教え合わせたりしながら技の質を高めさせていきたい。「おわり」の段階では、学習カードをもとに本時の振り返りを行い、次時の発表会につなげていきたい。

６　単元の評価基準（●　第６学年　　・　第５学年　　　◎　第５・６学年共通）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 運動への関心・意欲・態度 | 運動についての思考・判断 | 運動の技能 |
| 単元の評価基準 | ◎技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。●約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。・器械・器具の準備や片づけで、分担された役割を果たそうとしている。◎運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 | ◎課題の解決の仕方を知ると共に、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 | ◎自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技、及びその発展技できる。 |
| 学習活動に即した評価基準 | ①技ができたり、高めたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで運動に取り組もうとしている。②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。③運動をする場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 | ①課題解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の方法や場を選んでいる。②自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようにするための運動の行い方を工夫している。 | ①自分の力に合った安定した基本的な切返し系の技ができる。②自分の力に合った安定した基本的な回転系の技ができる。③自分の力に合った切返し系の発展技ができる。④自分の力に合った回転系の発展技ができる。 |

８　本時の学習（７/８）

　（１）　本時の目標

　　　○　自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようにするための運動の行い方を工夫することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考・判断）

　（２）　本時の評価項目

　　　○　自分が取り組む技のポイントを知り、技ができるようにするための運動の行い方を工夫している。

（思考・判断）

○　自分の力に合った回転系の発展技ができる。（技能）

９　学習指導過程（７/８）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 |
| Ｔ１ | Ｔ２ |
| はじめ１０分 | １　準備運動をする。　・体の各部位をほぐす　・感覚つくりの運動 | ○　それぞれの場で、安全面の確保やポイントを指導する。 | ○　感覚つくりのポイントを確認する。 |
| なか２７分 | ２　学習の進め方を確認する。めあて　　技のポイントを確認し、技ができるようにするための運動の行い方を工夫しながら、美しくダイナミックな技に挑戦しよう。・　美しくダイナミックな技について確認する。・　学習カードを参考に、自分のめあてを確認し、発表する。３　切り返し系の技に取り組む。　・開脚跳び　・安定した開脚跳び　・大きな開脚跳び　・かかえこみ跳び４　回転系の技に取り組む。　・台上前転　・安定した台上前転　・大きな台上前転　・首はね跳び　・頭はね跳び | ○　技のポイントについて説明する。【切り返し系の技】○　美しくダイナミックな技にするためのポイントや場について確認する。・　ふみきりの音：バーン・　踏み切り位置を遠くに　・　踏み切りの際に腕を後ろから勢いよく前に振る　・　ゴムひもを使う　・　着地位置にケンステップ○　【「努力を要する」状況と判断される児童への手立て】・　易しい場で練習し、それぞれの技を行うための感覚を養う。・　タブレットを使い、自分の動きの改善すべき点を確認させる。【回転系の技】　・　首はね起きの練習のポイントを説明する。　○　【「努力を要する」状況と判断される児童への手立て】・　易しい場で練習し、それぞれの技を行うための感覚を養う。・　タブレットを使い、自分の動きの改善すべき点を確認させる。 | ○　本時のめあてを確認する。○　児童のめあてを確認し、課題をもたせる。○　以下の点を中心に児童の指導・助言を行い、児童の意欲や意識を高める。　・　踏み切りの音　・　手の振り（後ろから前へ）　・　着地位置で３秒止まる。　・　友達へ意欲的にアドバイスをしている。○　美しくダイナミックな技のポイントについて学習カードを用いながら確認する。○　自分に適した場で練習を行うことを確認する。　○　以下の点を中心に児童を指導・助言を行う。　・　強い踏み切り・　手で支え、手と手の間を見る・　膝を伸ばしている。　 |
| おわり８分 | ５　学習の振り返りとまとめをする。６　次時の確認をする。７　片付けをする。 |  | ○　学習カードで振り返りを行う。○　次時のめあてを確認する。 |